

7 - 1 適正な土地利用計画の推進

評価責任者名	都市整備部長 藤島 裕久
評価シート作成者名	都市整備部次長 今野 孝一

【施策の目的(目指す姿)】

対象 (誰を, 何を対象としているか)	意図 (この施策より対象をどのように変えるのか)
都市計画区域 農用地区域 森林区域	総合的かつ計画的に土地利用される

【成果指標等の状況】

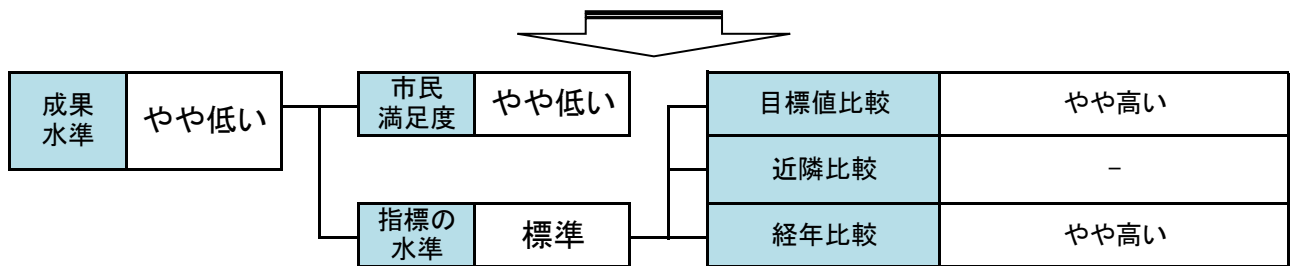
成果指標名(施策)	指標の性格	単位	施策の目標値・実績値の推移																								
市域における都市計画区域の割合	→	%	<table border="1"> <caption>市域における都市計画区域の割合推移</caption> <tr><th>年度</th><th>値</th></tr> <tr><td>当初値</td><td>71.3</td></tr> <tr><td>H17</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H18</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H19</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H20</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H21</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H22</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H23</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H24</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H25</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H26</td><td>50.3</td></tr> </table>	年度	値	当初値	71.3	H17	50.3	H18	50.3	H19	50.3	H20	50.3	H21	50.3	H22	50.3	H23	50.3	H24	50.3	H25	50.3	H26	50.3
年度	値																										
当初値	71.3																										
H17	50.3																										
H18	50.3																										
H19	50.3																										
H20	50.3																										
H21	50.3																										
H22	50.3																										
H23	50.3																										
H24	50.3																										
H25	50.3																										
H26	50.3																										
市域における農用地区域の割合	→	%	<table border="1"> <caption>市域における農用地区域の割合推移</caption> <tr><th>年度</th><th>値</th></tr> <tr><td>当初値</td><td>8.1</td></tr> <tr><td>H17</td><td>8.0</td></tr> <tr><td>H18</td><td>8.0</td></tr> <tr><td>H19</td><td>8.0</td></tr> <tr><td>H20</td><td>8.0</td></tr> <tr><td>H21</td><td>8.0</td></tr> <tr><td>H22</td><td>8.0</td></tr> <tr><td>H23</td><td>8.0</td></tr> <tr><td>H24</td><td>8.0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>8.5</td></tr> <tr><td>H26</td><td>8.4</td></tr> </table>	年度	値	当初値	8.1	H17	8.0	H18	8.0	H19	8.0	H20	8.0	H21	8.0	H22	8.0	H23	8.0	H24	8.0	H25	8.5	H26	8.4
年度	値																										
当初値	8.1																										
H17	8.0																										
H18	8.0																										
H19	8.0																										
H20	8.0																										
H21	8.0																										
H22	8.0																										
H23	8.0																										
H24	8.0																										
H25	8.5																										
H26	8.4																										
市域における森林区域の割合	→	%	<table border="1"> <caption>市域における森林区域の割合推移</caption> <tr><th>年度</th><th>値</th></tr> <tr><td>当初値</td><td>69.2</td></tr> <tr><td>H17</td><td>73.6</td></tr> <tr><td>H18</td><td>73.6</td></tr> <tr><td>H19</td><td>73.6</td></tr> <tr><td>H20</td><td>73.6</td></tr> <tr><td>H21</td><td>73.6</td></tr> <tr><td>H22</td><td>73.4</td></tr> <tr><td>H23</td><td>73.2</td></tr> <tr><td>H24</td><td>73.2</td></tr> <tr><td>H25</td><td>73.2</td></tr> <tr><td>H26</td><td>73.2</td></tr> </table>	年度	値	当初値	69.2	H17	73.6	H18	73.6	H19	73.6	H20	73.6	H21	73.6	H22	73.4	H23	73.2	H24	73.2	H25	73.2	H26	73.2
年度	値																										
当初値	69.2																										
H17	73.6																										
H18	73.6																										
H19	73.6																										
H20	73.6																										
H21	73.6																										
H22	73.4																										
H23	73.2																										
H24	73.2																										
H25	73.2																										
H26	73.2																										
市街化区域における土地利用促進割合	↗	%	<table border="1"> <caption>市街化区域における土地利用促進割合推移</caption> <tr><th>年度</th><th>値</th></tr> <tr><td>当初値</td><td>-</td></tr> <tr><td>H23</td><td>1.9</td></tr> <tr><td>H24</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>H26</td><td>2.5</td></tr> </table>	年度	値	当初値	-	H23	1.9	H24	2.0	H25	2.2	H26	2.5												
年度	値																										
当初値	-																										
H23	1.9																										
H24	2.0																										
H25	2.2																										
H26	2.5																										

基本事業名	成果指標名(基本事業)	指標の性格	単位	H26目標	H26実績
土地利用に関する計画の策定・見直し	市域における都市計画区域の割合	→	%	施策の成果指標に同じ	
	市域における農用地区域の割合	→	%	施策の成果指標に同じ	
	市域における森林区域の割合	→	%	施策の成果指標に同じ	
土地利用の管理・指導	市域における都市計画区域の割合	→	%	施策の成果指標に同じ	
	市域における農用地区域の割合	→	%	施策の成果指標に同じ	
	市域における森林区域の割合	→	%	施策の成果指標に同じ	

市民満足度・重要度

とても満足 / とても重要	やや満足 / やや重要	どちらともいえない	やや不満 / あまり重要ではない	とても不満 / 全く重要ではない	不明
---------------	-------------	-----------	------------------	------------------	----

項目	とても満足 / とても重要	やや満足 / やや重要	どちらともいえない	やや不満 / あまり重要ではない	とても不満 / 全く重要ではない	不明
満足度	7.7	67.5	12.8	6.5	3.9	0.6
重要度	17.9	28.6	42.1	3.2	0.6	0.6



**【取組内容と成果】**

都市計画法に基づく区域区分等の見直しや開発許可制度，国土利用計画法に基づく土地取引事後届出制度，国土調査法に基づく地籍調査などにより，適正な土地利用が図られ一定の成果を得られた。

**【成果を押し上げた要因】**

**【目標と成果とにギャップがある場合，その要因】**

**【これからの課題】**

今後とも，各種法令に基づく事務事業を円滑に進めていくとともに，適正な土地利用が図られるよう基準等の見直しが必要である。

**【各主体に期待する役割】**

- 市**  
土地利用の計画策定・見直し及び管理・指導については，市民の理解と協力を得ながら，市が主体的に行う。
- 国・県・他自治体**  
市の要請に応じて関係機関としての意見等を示す。
- 市民・NPO**  
市とともに土地利用の計画策定・見直し及び管理・指導に取り組んでいく。
- 企業・その他**  
必要に応じて，市とともに土地利用の計画策定・見直し及び管理・指導に取り組んでいく。

7 - 2 魅力ある都市景観の形成

評価責任者名	都市整備部長 藤島 裕久
評価シート作成者名	都市整備部次長 今野 孝一

【施策の目的(目指す姿)】

対象 (誰を、何を対象としているか)	意図 (この施策より対象をどのように変えるのか)
まち並み、山並み 市民・建築関係者	景観に配慮したまち並みが形成される

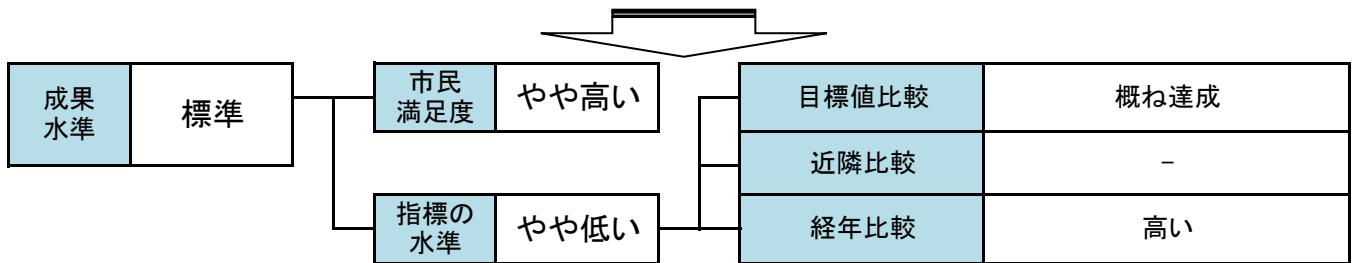
【成果指標等の状況】

成果指標名(施策)	指標の性格	単位	施策の目標値・実績値の推移
市民アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民割合	↗	%	
市民アンケート調査「誇れる田園や丘陵地の景観があると思う」と答えた市民割合	↗	%	
市民アンケート調査「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民割合	↗	%	
市民アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示・設置されているはり紙や看板など)は、景観に配慮して表示・設置されていると思う」と答えた市民割合	↗	%	
市民アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観がある」と答えた市民割合	↘	%	
市保存建造物数	↗	件	

基本事業名	成果指標名(基本事業)	指標の性格	単位	H26目標	H26実績
景観保存対策の充実	景観重要建造物及び景観重要樹木の指定件数(累計)	↗	件	30	1
景観形成の誘導	景観地区並びに準景観地区の指定件数(累計)	↗	件	2	1

市民満足度・重要度

とても満足／とても重要	やや満足／やや重要	どちらともいえない	やや不満／あまり重要ではない	とても不満／全く重要ではない	不明
-------------	-----------	-----------	----------------	----------------	----



**【取組内容と成果】**

景観法に基づく景観計画区域内の届け出件数が、平成22年度1,432件、平成23年度1,490件、平成24年度1,608件、平成25年度1,658件、平成26年度1,383件となっている。また、平成24年度に景観地区に指定した「大慈寺地区」での認定等の件数も平成24年度13件、平成25年度15件、平成26年度17件となっており、概ね制度の理解、周知がなされてきている。

また、平成26年度は、市所有の景観重要建造物「盛岡ふれあい覆馬場プラザ」、保存建造物「御蔵」等3件の運営管理を行うとともに、民間所有の2件について、その良好な維持管理を図るため「保存建造物修復事業補助金交付要綱」に基づき、所有者に対し修復に係る経費の一部を補助し、歴史的建造物を生かしたまちづくりを進めている。

屋外広告物条例に基づく許可等件数は、平成22年度463件、平成23年度526件、平成24年度639件、平成25年度607件、平成26年度654件となっており、全体的に増加傾向が見られ、市民や関連業者の意識の向上を図っている。

また、平成26年度は、違反広告物の是正指導を効率的かつ継続的に行うため、事務処理要領や是正指導計画の策定業務に取り組んだほか、大通りにおいて官民連携による「岩手広告景観タウンミーティング」を開催し、意識の向上に勤めた。

**【成果を押し上げた要因】**

良好な景観形成の要素である、建築物等の形態意匠や色彩等については、平成20年度に制定した景観計画及び景観条例に基づき、市域内での全ての建築等の行為を届出の対象としていることから、徐々に実効性が上がってきている。

**【目標と成果とにギャップがある場合、その要因】**

屋外広告物については、市へ権限委譲される以前からの無許可を含めた違反広告物が多数設置されていることや広告主・事業者等への制度の周知も充分とはいえない状況にある。

**【これからの課題】**

住民合意を前提に、良好な景観形成の実現の実効性をさらに高めるため、関係課と連携して「景観地区」、「地区計画」等の都市計画制度等の活用に取り組む必要がある。

また、市域に残る貴重な歴史的建造物等は重要な景観資源であるが、個々の建造物等の保全に留まらない、地域のまちづくりの視点で、市民協働による手法や国の支援制度の導入等について、関係課と連携して取り組む必要がある。

屋外広告物については、違反広告物の事務処理要領や是正指導計画等を策定し、継続的かつ効率的な取り組みを進める必要がある。

**【各主体に期待する役割】**

○ 市

**【景観保全対策の充実】**

- ・景観重要建造物や景観重要樹木の指定
- ・市所有保存建造物等の適正な管理
- ・市所有以外の保存建造物等の所有者への管理の支援

**【景観形成の誘導】**

- ・建築物・工作物の新築等の行為届出に対する景観計画に基づく指導
- ・景観地区の指定に向けた地元住民との合意形成の促進
- ・屋外広告物の許可申請に対する指導、管理する施設での屋外広告物の適切な設置、違反屋外広告物の広告主等への指導
- ・景観計画や屋外広告物許可基準の市民等への情報提供
- ・市民等の景観形成活動への支援

○ 国・県・他自治体

**【景観保全対策の充実】**

- ・所有する保存建造物等の適正な管理
- ・景観計画に沿った建築物・工作物の設置・改修

**【景観形成の誘導】**

- ・管理する施設での屋外広告物の適切な設置
- ・市民等の景観形成活動への支援

○ 市民・NPO

**【景観保全対策の充実】**

- ・所有する保存建造物等の適正な管理
- ・保存建造物等の管理への参加
- ・保存建造物等を利用・活用した活動の実践

**【景観形成の誘導】**

- ・景観計画に沿った建築物・工作物の設置・改修
- ・屋外広告物条例の遵守
- ・緑化や花壇の整備等の景観形成活動と活動への参加

○ 企業・その他

**【景観保全対策の充実】**

- ・所有する保存建造物等の適正な管理
- ・保存建造物等の管理への参加
- ・保存建造物等を利用・活用した活動の実践
- ・市民・NPOが行う保存建造物等の管理活動への支援

**【景観形成の誘導】**

- ・景観計画に沿った建築物・工作物の設置・改修
- ・屋外広告物条例の遵守
- ・緑化や花壇の整備等の景観形成活動と活動への参加

7 - 3 快適な居住環境の実現

評価責任者名	建設部長 古山 裕康
評価シート作成者名	建設部次長 小西 一士

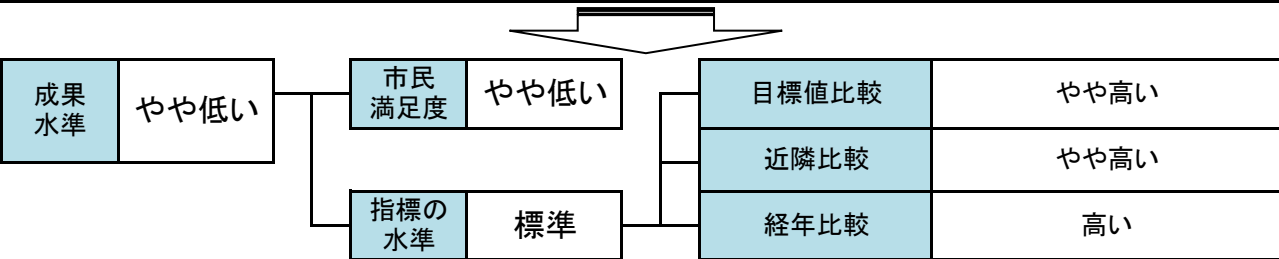
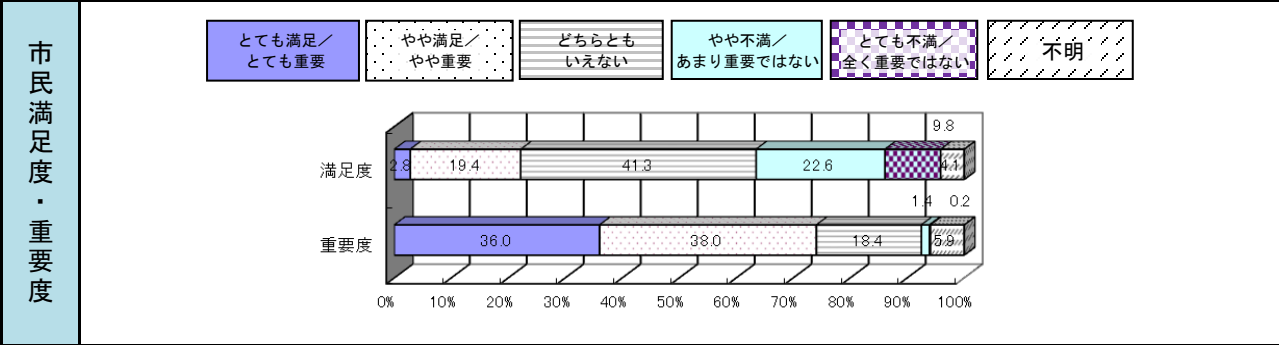
【施策の目的(目指す姿)】

対象 (誰を, 何を対象としているか)	意図 (この施策より対象をどのように変えるのか)
市街地, その他の市域, 市民・民間事業者, 区画道路, 利用者	快適な居住環境が確保される

【成果指標等の状況】

成果指標名(施策)	指標の性格	単位	施策の目標値・実績値の推移
市民アンケート調査「快適な居住空間である」と答えた市民の割合	↗	%	
市道舗装率	↗	%	

基本事業名	成果指標名(基本事業)	指標の性格	単位	H26目標	H26実績
生活道路環境の向上	市道改良率	↗	%	74.3	74.3
	市道除雪率	↗	%	72.00	72.80
良好な住宅地の誘導	市街化区域内における未利用地面積	↘	ha	141.0	174.0



### 【取組内容と成果】

■生活道路環境の向上における市道改良については、平成26年度は、1.5kmの改良に取り組んだ。一方、3.1kmが新たに市道認定され、結果として市道改良率は74.3%と目標値と同じ数値となった。市道除雪については、平成26年度には、新たに車道除雪を16.4km、歩道除雪を5.6kmを除雪路線と設定し除雪に取り組んだ。また、小型除雪機を5台増強し保有合計151台として市民に貸し出し、市民協働の除雪として約88kmの除雪に取り組んでいただいたほか、市が貸し出したダンプトラック等を活用した排雪にも取り組んでいただいた。

■良好な住宅地の誘導である未利用地対策については、区画整理事業に取り組んだほか、民間宅地開発については、良好な居住環境を形成するよう指導を行い、目標値には達しないものの、前年度より割合が増加した状況にある。また、木造建築物の耐震改善を進める木造耐震支援事業に取り組み、町内会回覧、広報掲載のほか、地域を特定した戸別訪問による周知に取り組んだ。

■以上の結果により、成果指標については、市民アンケート調査結果および市道舗装率ともに目標値に達しなかったものの、平成24年度より増加した。

### 【成果を押し上げた要因】

■市民満足度割合の増加については、道路整備等のハード面のほかに、市民協働による除雪が進み、除雪体制が拡充してきたことが一因と考えられる。

■市道舗装率については、市道改良や土地区画整理事業、民間開発による道路整備等のハード面整備に取り組んできたことによる。

### 【目標と成果とにギャップがある場合、その要因】

■快適な居住空間に対する市民満足度については、道路の整備や維持管理の取組みに対する満足度のうち、約3割以上が「不満」と思っていることが要因の一つと考えられ、近年課題となっている道路の穴ぼこ対策など適切な維持管理も一因と思慮される。

■市道舗装率は、市道の舗装整備延長は増加しているものの、新たに市道認定した路線が増加したことによる。また、基本事業である市道除雪率も同様となっている。

### 【これからの課題】

■道路の維持管理については、一層のパトロールや市民からの情報収集に努めるながら、市道の現場状況を適切に把握し長寿命化に向けた舗装打換え等の効率的な維持管理が重要であることから、計画的に適正な維持管理費の確保を図りながら取り組む必要がある。

■除排雪については、今後も市民の協力を得ながら、除排雪委託業者や除排雪車両の増強を図り、適切な除排雪に取り組む必要がある。一方、市民に貸し出ししている小型除雪機は、当初導入から13年が経過し、計画的な更新とこれまで使用してきた小型除雪機の適切な活用を検討する必要がある。

■居住環境の向上の要因となっている宅地開発については、近年、開発可能地が限られ開発許可件数や開発面積が減少している状況にあり、市街化区域における未利用地等について、平成27年度に見直した許可基準を運用しながら、住宅地の供給と良好居住環境の構築を図るとともに、危険宅地対策等に取り組んでいく必要がある。また、木造住宅耐震支援事業は、平成27年までの診断目標を1,100戸としているが、平成26年度までの実績は649戸で、申し込み戸数は減少傾向にあることから、個別訪問地域の拡大や申請希望の高齢者に対する申請書類の訪問受理など、増加に向けた取り組みと平成27年度で計画期間が終了する「盛岡市耐震促進計画」の見直し等の継続した建築物の耐震化が必要である。

### 【各主体に期待する役割】

#### ○ 市

##### 【生活道路環境の向上】

生活道路環境の向上のため各種事業の適正な実施

##### 【良好な住宅地の誘導】

本市における良好な住宅地の誘導については、市民の理解と協力を得ながら、市が主体的に行うものである。

#### ○ 国・県・他自治体

##### 【生活道路環境の向上】

市が実施する各種事業への技術的支援や補助金等の交付

##### 【良好な住宅地の誘導】

市の要請に応じ、関係機関として必要な意見等を示してもらう。

#### ○ 市民・NPO

##### 【生活道路環境の向上】

市が実施する各種事業への理解と協力及び市民協働意識の向上

##### 【良好な住宅地の誘導】

市とともに、良好な住宅地の誘導に取り組む。

#### ○ 企業・その他

##### 【生活道路環境の向上】

市が実施する各種事業への協力と支援

##### 【良好な住宅地の誘導】

必要に応じ、市や市民とともに良好な住宅地の誘導に取り組む。



7 - 4 うるおいのある公園・街路樹の確保

評価責任者名	都市整備部長 藤島 裕久
評価シート作成者名	都市整備部次長 今野 孝一

【施策の目的(目指す姿)】

対象 (誰を, 何を対象としているか)	意図 (この施策より対象をどのように変えるのか)
市街地, 市民	公園や街路樹の緑が確保される

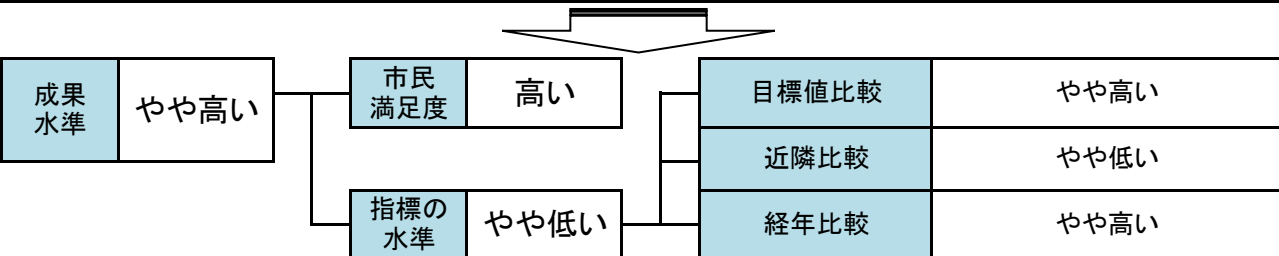
【成果指標等の状況】

成果指標名(施策)	指標の性格	単位	施策の目標値・実績値の推移
市民アンケート調査「公園や街路樹などの街の中の緑が多いと思う」と答えた市民の割合	↗	%	
1人当たりの公園等面積	↗	m <sup>2</sup> /人	
街路樹のある道路延長	↗	km	

基本事業名	成果指標名(基本事業)	指標の性格	単位	H26目標	H26実績
スペースの確保	1人当たりの公園等面積	↗	m <sup>2</sup> /人	施策の成果指標に同じ	
	公園数	↗	箇所	482	468
公共空間の緑地推進	街路樹のある道路延長	↗	km	施策の成果指標に同じ	
	公的緑化推進制度の利用件数	↗	件	260	277
私的空間の緑化推進	私的緑化推進制度の利用件数	↗	件	150	128

**市民満足度・重要度**

とても満足 / とても重要	やや満足 / やや重要	どちらとも いえない	やや不満 / あまり重要ではない	とても不満 / 全く重要ではない	不明
---------------	-------------	------------	------------------	------------------	----



### 【取組内容と成果】

盛岡市緑の基本計画(改訂)に位置付けている「都市緑化の推進」を進めるため、ハンギングバスケット設置などの花と緑のガーデン都市づくり事業などの取り組みを行うとともに、高松公園、中央公園、畑中近隣公園、盛岡南地区公園などの整備を実施したほか、盛岡城跡公園は三ノ丸の石垣修理に必要な遺構確認調査や石垣測量図化等を実施し、岩山公園は整備基本計画に基づき、園路の整備を実施した。

また、ワークショップやグラウンドワークによる市民協働の公園整備や緑化活動に取り組むとともに、市民主体の身近な緑化活動への支援や啓蒙啓発に取り組んでおり、一定の成果をあげている。

### 【成果を押し上げた要因】

- ・身近に緑が感じられる生活環境実現を目指し、総合公園及び近隣公園等の整備や市民・事業者・行政などが参加するグラウンドワーク手法による公園づくりを各地区で取り組んだことから、公園等面積の目標値を達成した。
- ・街路樹については、新設道路整備箇所や樹木の配置や樹種などについて地域住民の意見を取り入れながら地域の特性に応じた道路づくりを行い、併せて街路樹愛護会により、低木の剪定や植樹樹の草取りなど適正な維持管理等を実施した結果、目標値には達しないものの街路樹のある道路延長の実績の向上が見られた。

### 【目標と成果とにギャップがある場合、その要因】

### 【これからの課題】

公園整備や緑化活動は、市民からの要望等が多く、十分な成果が得られていない状況であり、今後とも、質・量とも充実した取り組みが望まれる。

### 【各主体に期待する役割】

#### ○ 市

##### 【スペースの確保】

緑の基本計画に掲げる「緑が文化になるまち盛岡」の実現に向け、広く市民の利用に供する総合公園などの大規模公園や、地域住民が利用する街区公園などの整備を推進しながら、次世代に受け継ぎ、守り・育て・親しむ緑を創出し、その保全に努めるとともに、盛岡の緑に対する市民意識の高揚に努める。

##### 【公共空間の緑地推進】

街路事業や土地区画整理事業の推進により成果向上を図るとともに、市街地に潤いを与え、良好な景観を構成する街路樹の適正な剪定作業に努める。

##### 【私的空間の緑化推進】

「緑が文化になるまち盛岡」の実現に向け、公共空間の緑化とともに私的空間の緑化を推進する。

また、市街地に花と緑があふれ、良好な景観が形成されるよう、市民が日常生活の中で、緑を守り・育て・親しむための活動を支援する。

#### ○ 国・県・他自治体

#### ○ 市民・NPO

##### 【スペースの確保】

地域住民が利用する身近な公園は、地域住民が自ら維持管理することを基本として、地域のコミュニティ活動の一環として取り組む必要がある。また、地域住民の意識やコミュニティ活動の成熟度合いに応じて、グラウンドワークによる整備、アダプト制度の活用等により、未開設公園の整備、老朽化した公園の再整備に努める。

##### 【公共空間の緑地推進】

幹線道路の植樹樹や、支援制度を活用した緑化箇所の除草、清掃等を行うなど、地域住民にとって身近な緑は、地域住民が自ら維持管理に努める。

##### 【私的空間の緑化推進】

支援制度を活用した緑化箇所の除草、清掃等を行うなど、日常的に親しむ身近な緑を適正に維持管理する。

#### ○ 企業・その他

##### 【スペースの確保】

各種事業所は、地域に根ざした社会貢献活動の一環として、身近な公園等の維持管理や再整備などに積極的に参画し、寄与する。



7 - 5 いつでも信頼される上水道事業の推進

評価責任者名	上下水道部長 藤井 敬芳
評価シート作成者名	上下水道部次長 小野寺 弘純

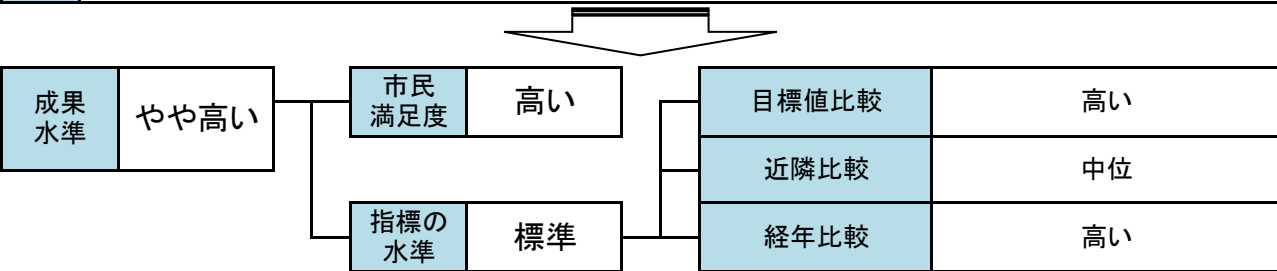
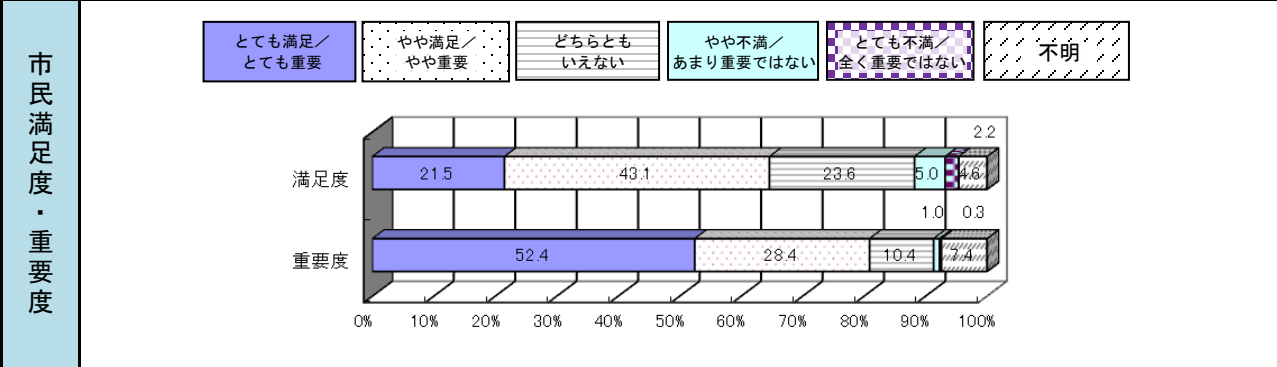
【施策の目的(目指す姿)】

対象 (誰を, 何を対象としているか)	意図 (この施策より対象をどのように変えるのか)
上水道施設利用者	安全な水が安定的に供給される

【成果指標等の状況】

成果指標名(施策)	指標の性格	単位	施策の目標値・実績値の推移
上水道普及率	↗	%	
水道管耐震化率	↗	%	

基本事業名	成果指標名(基本事業)	指標の性格	単位	H26目標	H26実績
安定給水の確保	有効率	↗	%	93.8	94.3
	耐震化率	↗	%	施策の成果指標に同じ	
	残留塩素	↘	mg/l	1以下	0.41
給水サービスの向上	公道内鉛製給水管解消率	↗	%	100.00	78.89
経営の効率化	総資本利益率	↗	%	0.50	2.80
	自己資本構成比率	↗	%	65.00	70.06



### 【取組内容と成果】

上水道普及率は、住民要望を踏まえ未給水地域解消事業を推進したことにより、水道整備地域が増加したことから目標を達成できた。ただし、未給水区域の大半が郊外に散在しており、費用対効果が低いことから、今後の普及率増加は見込めないものと想定している。

水道管耐震化率は、震度7の地震時においても離脱しない水道管路の整備を平成5年から進めたことから、近年の工事不調・不落の影響もあり目標には達していないが着実に増加し続けている。また、経年管更新に併せて耐震化を進めたことにより、漏水対策の向上につながり、維持管理費の節減など経営の健全化の面でも成果をあげている。

### 【成果を押し上げた要因】

上水道普及率が目標を達成できたのは、未給水地域解消事業の推進を目標に、計画的かつ効果的な配水管整備を実施したことによるものと考えている。また、地下水の枯渇や水質悪化による井戸水利用者の緊急性の高い給水要望に対応し、投資効果を考慮しながら配水管の整備を進めたことも成果を押し上げた要因と考えている。

### 【目標と成果とにギャップがある場合、その要因】

水道管耐震化率の最終目標値は旧玉山村との合併前に設定した値であり、合併時に見直しできなかったことが目標と成果が乖離した要因であると考えている。

### 【これからの課題】

今後は人口減少による水重要の減少が想定され、変化する時代に順応しながら持続可能な水道システムの実現につなげていく必要がある。水道耐震化率の向上は持続的な安定給水には不可欠であるが、上水道普及率は中長期的な財政状況や費用対効果を考慮し進めなければならないことから、これからの時代に合った新たな目標設定が必要と考えている。

### 【各主体に期待する役割】

#### ○ 市

水道は市民生活に欠くことのできないライフラインであり、将来にわたり安全な水質、強靱な施設、持続できる健全な事業運営を行うこと。

#### ○ 国・県・他自治体

水道行政に係る適切な指導・監督を行うとともに、水道施設整備に係る国庫補助金の確保及び適切な交付を行うこと。

#### ○ 市民・NPO

水道料金の負担及び水道法に基づき給水装置の維持管理を行うこと。

#### ○ 企業・その他

水道施設の各種設備の技術革新とコスト縮減、及び業務委託での技術力向上と人材育成を行うこと。

7 - 6 健全な水環境・良好な水循環の創出

評価責任者名	上下水道部長 藤井 敬芳
評価シート作成者名	上下水道部次長 小野寺 弘純

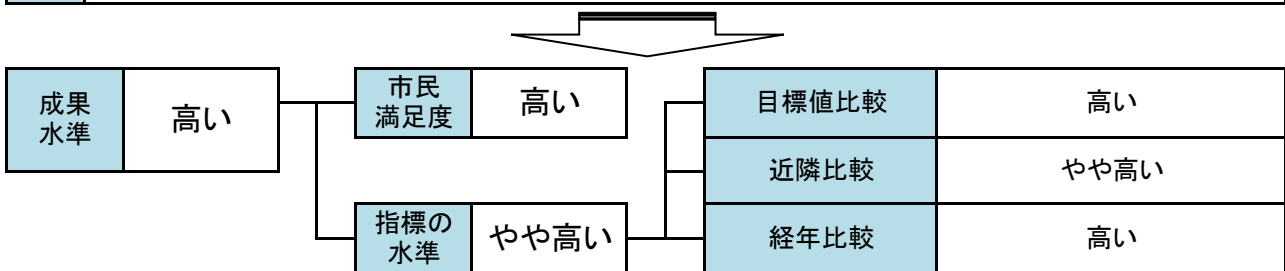
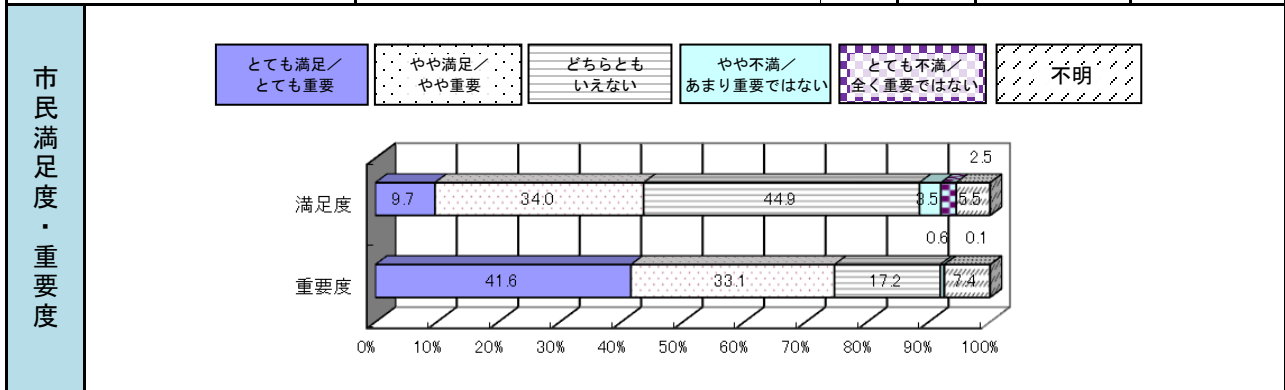
【施策の目的(目指す姿)】

対象 (誰を, 何を対象としているか)	意図 (この施策より対象をどのように変えるのか)
水環境施設 (汚水処理施設・雨水排水施設) 市民	衛生的で安全な水環境が確保される

【成果指標等の状況】

成果指標名(施策)	指標の性格	単位	施策の目標値・実績値の推移
汚水処理人口普及率 (処理区域内人口/行政区域内人口)	↗	%	
下水道雨水施設整備率 (整備面積/雨水認可面積)	↗	%	

基本事業名	成果指標名(基本事業)	指標の性格	単位	H26目標	H26実績
汚水処理の充実	汚水処理人口普及率(処理区域内人口/行政区域内人口)	↗	%	施策の成果指標に同じ	
雨水浸水対策の推進	下水道雨水施設整備率(整備面積/雨水認可面積)	↗	%	施策の成果指標に同じ	
下水道事業の健全経営	回収率(使用料単価/処理原価)	↗	%	100.00	98.14



**【取組内容と成果】**

施設整備については、事業効果及び緊急度等を勘案しながら整備を実施したが、汚水処理人口普及率については、交付金の要望額に対する減額や入札不調が相次いだことより、処理区域の拡大が進まなかったことにより、目標値に至らなかった。なお、雨水施設整備率については、区画整理事業完了に伴う、整備面積の見直しにより目標値が達成されたものである。

**【成果を押し上げた要因】**

事業効果及び緊急度等を勘案しながら整備を実施している。

**【目標と成果とにギャップがある場合、その要因】**

全般的事項としては、事業実施の大きな財源となる交付金が要望額から大幅に削減されたこと、入札不調により工事実施に至らない又は遅れが生じたことが挙げられる。

**【これからの課題】**

現在の財政事情では、下水道整備費の抑制傾向は必至であるが、今後は、これまでに建設した既存施設の改築・更新事業に重きを置きながら、未整備地区の整備を進めていく必要がある。しかし、交付金の内示率の低下及び汚水未整備地区における費用対効果の低下から、汚水処理人口普及率、雨水施設整備率とも成果の伸び率が鈍ることが懸念される。

なお、下水道事業全般について、さらなる経費の節減や収入の安定確保に取り組むなど、経営の健全化に一層努める必要がある。

**【各主体に期待する役割】****○ 市**

・抑制傾向にある財政事情の中で、事業の優先度を勘案しながら汚水及び雨水整備のほか、各種事業を行うこと。

**○ 国・県・他自治体**

・当市における下水道事業実施計画の審査を行い、汚水及び雨水事業のほか、各種事業に交付金の交付を行うこと。  
・災害等非常時における相互応援体制について連携の強化を図ること。

**○ 市民・NPO**

・汚水管整備完了後、速やかな水洗化工事を行うこと。  
・自らの雨水流出抑制、流水阻害要因の解消等に関する適切な措置及び対応を行うこと。

**○ 企業・その他**

・新技術開発によるコスト縮減対策の提案を行うこと。  
・自らの雨水流出抑制、流水阻害要因の解消等に関する適切な措置及び対応を行うこと。

7 - 7 にぎわいのある市街地の形成

評価責任者名	都市整備部長 藤島 裕久
評価シート作成者名	都市整備部次長 今野 孝一

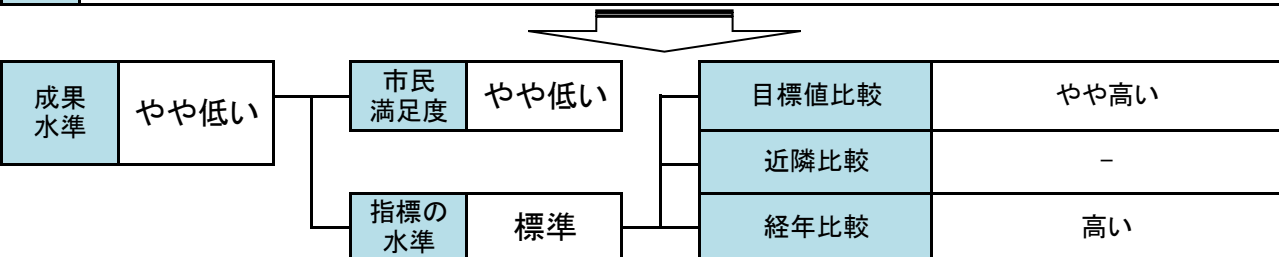
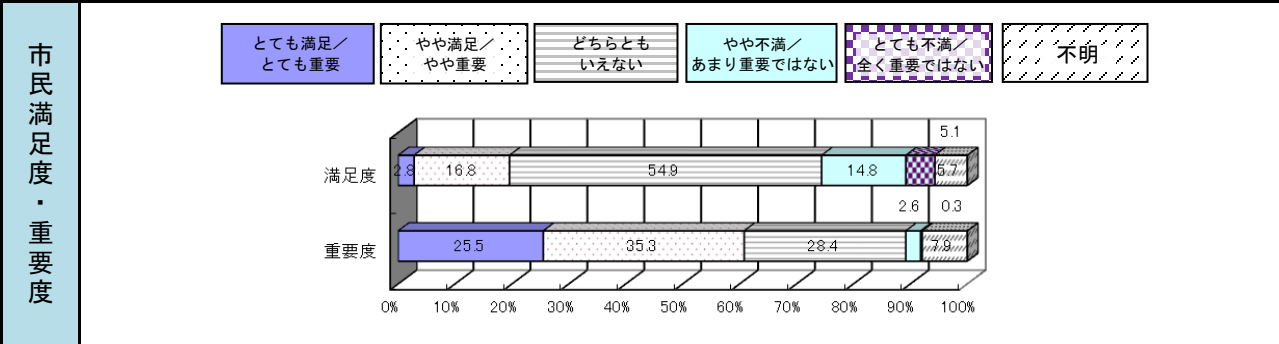
【施策の目的(目指す姿)】

対象 (誰を, 何を対象としているか)	意図 (この施策より対象をどのように変えるのか)
既存市街地 太田, 盛南, その他土地区画整理地区	都市基盤と拠点機能が整備された快適な市街地が形成され, 人が集まりにぎわう

【成果指標等の状況】

成果指標名(施策)	指標の性格	単位	施策の目標値・実績値の推移																								
土地区画整理事業施行地区内人口	↑	人	<table border="1"> <caption>土地区画整理事業施行地区内人口推移</caption> <tr><th>年度</th><td>当初値</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>人口</th><td>13,653</td><td>15,299</td><td>16,135</td><td>17,059</td><td>17,650</td><td>18,658</td><td>19,951</td><td>20,776</td><td>21,705</td><td>22,553</td><td>23,139</td></tr> </table>	年度	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	人口	13,653	15,299	16,135	17,059	17,650	18,658	19,951	20,776	21,705	22,553	23,139
年度	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																
人口	13,653	15,299	16,135	17,059	17,650	18,658	19,951	20,776	21,705	22,553	23,139																
商業地域面積利用率 (利用済商業地域面積/商業地域面積) ※西口・盛南地区	↑	%	<table border="1"> <caption>商業地域面積利用率推移</caption> <tr><th>年度</th><td>当初値</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>利用率</th><td>32.5</td><td>60.7</td><td>68.3</td><td>71.0</td><td>72.3</td><td>85.2</td><td>86.7</td><td>92.1</td><td>92.4</td><td>94.3</td><td>94.3</td></tr> </table>	年度	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	利用率	32.5	60.7	68.3	71.0	72.3	85.2	86.7	92.1	92.4	94.3	94.3
年度	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																
利用率	32.5	60.7	68.3	71.0	72.3	85.2	86.7	92.1	92.4	94.3	94.3																
既成市街地に整備された拠点施設数(累計)	↑	棟	<table border="1"> <caption>既成市街地に整備された拠点施設数推移</caption> <tr><th>年度</th><td>当初値</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>施設数</th><td>7</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr> </table>	年度	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	施設数	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8
年度	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																
施設数	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8																

基本事業名	成果指標名(基本事業)	指標の性格	単位	H26目標	H26実績
既成市街地の再整備	土地区画整理事業施行地区内人口	↑	人	施策の成果指標に同じ	
	既成市街地に整備された拠点施設数(累計)	↑	棟	施策の成果指標に同じ	
都心を担う新市街地の整備	西口・盛南地区の市街化率 (施行地区内人口/施行地区内の計画人口)	↑	%	69.90	68.71
	商業地域面積利用率(利用済商業地域面積/商業地域面積)※西口・盛南地区	↑	%	施策の成果指標に同じ	
	道明地区の人口	↑	人	722	730



### 【取組内容と成果】

土地区画整理事業等の市街地整備事業に取り組んだことにより、都市における基盤整備や土地利用の促進において、一定の成果をあげている。  
また、事業のあり方等について権利者の方々との話し合いに取り組んだ。

### 【成果を押し上げた要因】

主に盛岡南新都市において、都市基盤が整備され、住宅地として活用されたことにより、人口集積が図られた。

### 【目標と成果とにギャップがある場合、その要因】

### 【これからの課題】

土地区画整理事業等については、少子高齢化や長引く景気低迷など厳しい社会経済状況の中で計画どおりの事業費の確保が困難となり、事業進捗の目処が立ちにくい状況となっている。  
平成25年度に都南中央第三地区・道明地区については、施行区域を大幅に縮小し、早期に生活環境改善を実施する見直し方針を決定した。平成26年度は、土地区画整理事業を継続する区域の換地計画等の変更や土地区画整理事業によらない区域の施設整備計画を策定したことから、今後は関連する事業計画変更や都市計画変更等を行うと共に、早期に道路や上下水道等の生活環境整備を図る必要がある。  
また、組合施行事業については、地価の下落などから事業そのものの実施が危ういものとなっている。今後においては、組合設立認可取り消しを行った大平地区については債務処理を、上厨川地区については事業の収束をどのように図るべきかを先例にとらわれず検討し実行していく必要がある。

### 【各主体に期待する役割】

#### ○ 市

- ・市施行の土地区画整理事業にあつては、施行者として主体的な役割を担う。
- ・市街地再開発事業にあつては、中心市街地の活性化のための計画立案等の指導的役割と補助者としての役割を担う。

#### ○ 国・県・他自治体

- ・国は、事業費の補助者としての役割を担う。
- ・県は、事業の許認可の役割を担う。
- ・他自治体は、互いに協力し、事業の情報を交換して円滑な事業推進を図る役割を担う。

#### ○ 市民・NPO

- ・土地区画整理事業にあつては、地権者は、土地の提供者として、また建物等の移転、換地等事業推進のために協力する役割を担う。
- ・市街地再開発事業にあつては、地権者は、施行者として主体的な役割とともに土地の提供者として、また事業推進のために協力する役割を担う。
- ・一般の市民・NPOは、整備された地区や施設に居住して、あるいは活動して賑わいをもたらす役割を担う。

#### ○ 企業・その他

- ・土地区画整理事業に関わる企業は、誠実に整備等を行い事業を推進する役割を担う。
- ・一般の企業は、整備された地区や施設に立地し、賑わいをもたらす役割を担う。



7 - 8 都市活動を支える交通環境の構築

評価責任者名	建設部長 古山 裕康
評価シート作成者名	建設部次長 小西 一士

【施策の目的(目指す姿)】

対象 (誰を, 何を対象としているか)	意図 (この施策より対象をどのように変えるのか)
各交通手段, 幹線道路等, 利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイカー利用を抑制し, 公共交通機関(バス・鉄道, タクシー等), 自転車を利用してもらう</li> <li>・広域交通や物流を支える交通を確保する</li> </ul>

【成果指標等の状況】

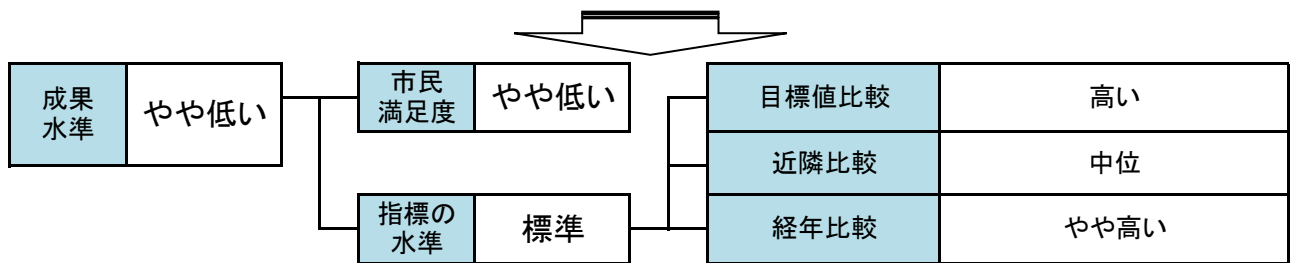
成果指標名(施策)	指標の性格	単位	施策の目標値・実績値の推移																																					
平日の主要幹線道路の混雑度	↘	割合	<table border="1"> <tr><th>年</th><td>当初値</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>値</th><td></td><td></td><td></td><td>1.15</td><td>1.17</td><td>1.16</td><td>1.15</td><td>1.09</td><td>1.13</td><td>1.11</td><td>1.10</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1.15</td><td></td><td></td></tr> </table>	年	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	値				1.15	1.17	1.16	1.15	1.09	1.13	1.11	1.10	目標値									1.15			
年	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																													
値				1.15	1.17	1.16	1.15	1.09	1.13	1.11	1.10																													
目標値									1.15																															
無違反の歩行者・自転車が事故に遭った件数	↘	件	<table border="1"> <tr><th>年</th><td>当初値</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>値</th><td></td><td>284</td><td>302</td><td>354</td><td>292</td><td>345</td><td>314</td><td>279</td><td>226</td><td>195</td><td>175</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>414</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>372</td></tr> </table>	年	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	値		284	302	354	292	345	314	279	226	195	175	目標値						414					372	
年	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																													
値		284	302	354	292	345	314	279	226	195	175																													
目標値						414					372																													
交通の手段分担率の変化	自動車	↘	%	<table border="1"> <tr><th>年</th><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>値</th><td>65.0</td><td>65.0</td><td>62.9</td><td>63.9</td><td>62.1</td><td>63.9</td><td>59.3</td><td>64.4</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>64.9</td><td></td><td></td><td>64.7</td></tr> </table>	年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	値	65.0	65.0	62.9	63.9	62.1	63.9	59.3	64.4	目標値								64.9			64.7						
	年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																															
	値	65.0	65.0	62.9	63.9	62.1	63.9	59.3	64.4																															
	目標値								64.9			64.7																												
バス	↗	%	<table border="1"> <tr><th>年</th><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>値</th><td>12.3</td><td>9.7</td><td>8.9</td><td>7.7</td><td>8.0</td><td>9.9</td><td>11.5</td><td>12.2</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>12.4</td><td></td><td></td><td>12.5</td></tr> </table>	年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	値	12.3	9.7	8.9	7.7	8.0	9.9	11.5	12.2	目標値								12.4			12.5							
年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																																
値	12.3	9.7	8.9	7.7	8.0	9.9	11.5	12.2																																
目標値								12.4			12.5																													
鉄道	↗	%	<table border="1"> <tr><th>年</th><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>値</th><td>3.8</td><td>1.4</td><td>3.4</td><td>3.0</td><td>3.5</td><td>2.3</td><td>3.2</td><td>4.1</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>3.8</td><td></td><td></td><td>3.9</td></tr> </table>	年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	値	3.8	1.4	3.4	3.0	3.5	2.3	3.2	4.1	目標値								3.8			3.9							
年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																																
値	3.8	1.4	3.4	3.0	3.5	2.3	3.2	4.1																																
目標値								3.8			3.9																													
徒歩, 自転車等	↗	%	<table border="1"> <tr><th>年</th><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>値</th><td>19.0</td><td>23.9</td><td>24.8</td><td>25.4</td><td>26.4</td><td>23.9</td><td>26.0</td><td>19.3</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>19.0</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	値	19.0	23.9	24.8	25.4	26.4	23.9	26.0	19.3	目標値								19.0										
年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																																
値	19.0	23.9	24.8	25.4	26.4	23.9	26.0	19.3																																
目標値								19.0																																
1日当たりのバス・鉄道利用者数	↗	人	<table border="1"> <tr><th>年</th><td>当初値</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H19</td><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><th>値</th><td></td><td>64,470</td><td>66,858</td><td>68,257</td><td>66,595</td><td>66,731</td><td>65,431</td><td>65,527</td><td>65,857</td><td>66,862</td><td>71,962</td><td>71,785</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>70,000</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>71,700</td></tr> </table>	年	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	値		64,470	66,858	68,257	66,595	66,731	65,431	65,527	65,857	66,862	71,962	71,785	目標値						70,000					71,700
年	当初値	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26																													
値		64,470	66,858	68,257	66,595	66,731	65,431	65,527	65,857	66,862	71,962	71,785																												
目標値						70,000					71,700																													

基本事業名	成果指標名(基本事業)	指標の性格	単位	H26目標	H26実績
総合交通体系の確立	市民アンケート調査「快適に移動できる」と思う市民の割合	↗	%	33.9	44.7
公共交通機関の利便性向上と利用促進	1日当たりのバス利用者数	↗	人	39,000	39,293
	1日当たりの鉄道利用者数	↗	人	32,700	32,492
自転車, 歩行者のための交通環境の構築	市民アンケート調査「自転車で快適に移動できる」と思う市民の割合	↗	%	38.0	32.0
	歩道設置延長	↗	km	450.00	452.92
幹線道路の整備	幹線道路改良率	↗	%	62.1	65.6

市民満足度・重要度

とても満足 / とても重要	やや満足 / やや重要	どちらともいえない	やや不満 / あまり重要ではない	とても不満 / 全く重要ではない	不明
---------------	-------------	-----------	------------------	------------------	----

満足度	5.4	23.1	33.8	23.0	9.6	5.4
重要度	3.4	3.4	4.0	1.2	0.3	7.3



### 【取組内容と成果】

- 主要幹線道路の混雑度低下については、幹線道路の整備とあわせバスを中心とした公共交通等の施策推進により、平成20年度以降、減少傾向にあり、目標を達成することが出来た。
- 事故件数減少については、歩道整備による歩行環境の向上や自転車走行環境の整備、自転車のマナー向上施策の推進により、5年連続で減少傾向となり、目標を達成することができた。
- 交通の手段分担の変化およびバス・鉄道利用者数については、歩道及び自転車走行空間の整備とあわせ、山田線を増便する社会実験等の公共交通施策推進により、各交通の手段分担率の目標値をほぼ達成するとともに、バス・鉄道の利用者数についても目標を達成した。

### 【成果を押し上げた要因】

- 幹線道路の整備とあわせ公共交通等の施策推進および交通に対する市民意識の変化により、交通手段分担において自動車利用が減少傾向となっていることが、混雑度を下げている要因と考えられる。
- 歩行者・自転車の事故件数は、歩道整備による歩行環境の向上や自転車走行環境の整備、自転車のマナー向上施策の推進等が要因となり、減少傾向になっていると考えられる。
- 歩道及び自転車走行空間の整備や公共交通等の施策推進により、各交通手段における利用環境が向上したことが、バス・鉄道・徒歩・自転車の各交通手段分担率を上昇させ、バス・鉄道の利用者数を増加させた要因であると考えられる。

### 【目標と成果とにギャップがある場合、その要因】

- 通勤時のバス利用分担率のみ目標値に達していないが、バス利用率およびバス利用者数については、増加傾向にある。また、「まちなか・おでかけバス」も増加要因の一つと考えられるほか、「まちなか・おでかけバス」のPR等の取り組みも公共交通利用促進の機運を高める一因になっているとも考えられる。

### 【これからの課題】

- 徒歩・自転車の事故件数、交通手段分担率は概ね目標を上回っているものの、自転車の移動の快適性については目標を下回っており、近年の自転車利用への関心の高まりとともに、自転車走行環境の充実が求められていることから、国で作成した『安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン』等を参考にしながら、自転車走行環境の整備等に今後も取り組む。
- 鉄道の利用者数は、減少に歯止めがかかった状況となっているが、目標値を下回っていることから、現在取り組んでいる施策を推進するとともに、JR山田線の社会実験と合わせてモビリティ・マネジメントによる公共交通利用の促進に取り組む。また、バス利用についても、「まちなか・おでかけバス事業」における中心市街地活性化との連携のような他施策との連携についても引き続き検討をおこなう。
- バスの走行環境向上や安全確保による交通環境の快適性向上のため、計画的な幹線道路の整備を継続する必要がある。

### 【各主体に期待する役割】

#### ○ 市

- 自家用車利用を抑制し、公共交通や自転車への転換を図るための施策を引き続き継続する。
- 交通環境の快適性向上のため、幹線道路の整備や自転車走行環境の整備を引き続き取り組む。

#### ○ 国・県・他自治体

- 幹線道路の整備を継続するとともに、公共交通や自転車等の利用促進に向けた各施策を市と一体となって取り組む。

#### ○ 市民・NPO

- 自動車による移動を我慢し、公共交通や自転車等を利用した移動を心がける。

#### ○ 企業・その他

- 自動車による移動を我慢し、公共交通や自転車等を利用した移動を心がける。